

発熱

38°C以上の時

- 発熱が38°C未満の場合は発熱以外の症状で判断してください(他のチャートを参考にしてください)
- 水分補給、体を冷やすことが大事です



機嫌良好で、哺乳量も変わらない
電話相談して指示を仰ぐ

機嫌が悪い、または哺乳量が減退
直ちに受診

機嫌良好で、哺乳(水分摂取)量も変わらない
翌朝かかりつけ医受診、ただし症状悪化があれば救急受診

機嫌が悪い、または哺乳(水分摂取)量が減退
直ちに受診

咳が出る

- 上体を高くして寝かせましょう
- 水分補給を十分にしてあげてください



咳が軽く、眠れる
翌朝かかりつけ医受診

咳やせいで眠れない
咳込んで何度も吐く
直ちに受診

ぐったりして会話もできない
直ちに救急車を呼ぶ

嘔吐

数回の嘔吐

- 脱水症にならないように、少しずつこまめに水分を補給しましょう

生後3ヶ月以下
直ちに受診

嘔吐(2時間で3回以内)以外はいつもと変わらない
翌朝かかりつけ医受診

激しい腹痛または頭痛
血や緑色の吐物
血の混じった下痢
直ちに受診

ぐったりして会話もできない
直ちに救急車を呼ぶ

けいれん

生後6ヶ月未満、またはけいれんが10分以上続いている

直ちに救急車を呼ぶ

けいれんが止まっている

- けいれんが起きた時の処置
- あわてない
 - 命にかかることはありません
 - 何もするな
 - 口の中に指や箸を入れないでください
 - 楽な姿勢で体を横に向けて、衣服を緩めてください

熱がある
けいれんが日に2回以上ある
直ちに受診

けいれんに左右差がある
直ちに受診

呼んでも返事しない
直ちに救急車を呼ぶ

返事ができる
熱のチャート参照
直ちに受診

腹痛

- がまんできないような痛みなら、解熱剤(鎮痛剤)を使用して1時間ほど様子をみましょう

嘔吐がある
嘔吐のチャート参照

1時間以上腹痛が続く
直ちに受診

耳痛

- がまんできないような痛みなら、解熱剤(鎮痛剤)を使用して1時間ほど様子をみましょう



発熱や耳だれがある
翌朝かかりつけ医受診

頭を強く打った
耳かきで耳をついた
めまいがある
直ちに受診

家庭での注意事項

解熱剤(座薬など)は、家庭に常備しておいて下さい。急な発熱以外にも、解熱剤は鎮痛作用がありますので、腹痛、頭痛、耳痛などの時にも使用して様子を見て下さい。喘息のあるかたは、夜間発作時の対応をかかりつけ医と相談しておきましょう。